

オーケストラ ファンド (安定コース)

追加型投信／内外／資産複合

Capital Asset Management

商品概要

| | |
|------|--|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／資産複合 |
| 投資対象 | オルタナティブ・ファンドを含め、世界のファンドの中から厳選されたファンドに投資するファンド・オブ・ファンズ方式で運用することを基本とし、信託財産の長期的な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。 |
| 設定日 | 2021年12月24日 |
| 信託期間 | 無期限 |
| 決算日 | 原則、毎年12月15日（休業日の場合は翌営業日） |

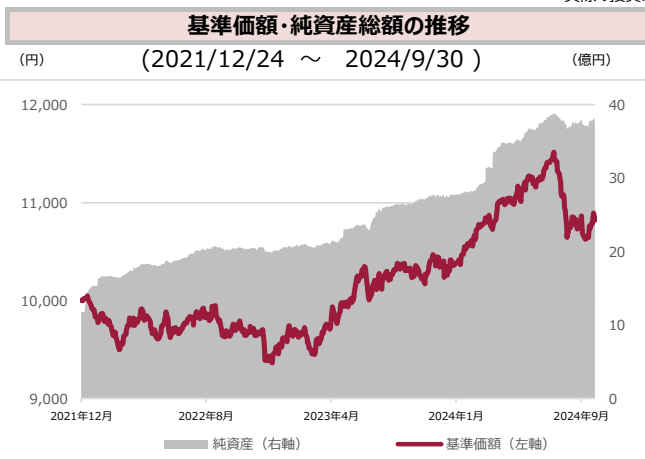
運用実績

| 基準価額 | |
|-------|------------|
| 基準日 | 2024年9月30日 |
| 基準価額 | 10,822 円 |
| 前月末比 | +59 円 |
| 純資産総額 | 37.9 億円 |
| 前月末比 | +0.3 億円 |

| 騰落率 | |
|-----|-------|
| 期間 | 騰落率 |
| 1か月 | 0.5% |
| 3か月 | -5.2% |
| 6か月 | -1.8% |
| 1年 | 5.0% |
| 3年 | - |
| 設定来 | 8.2% |

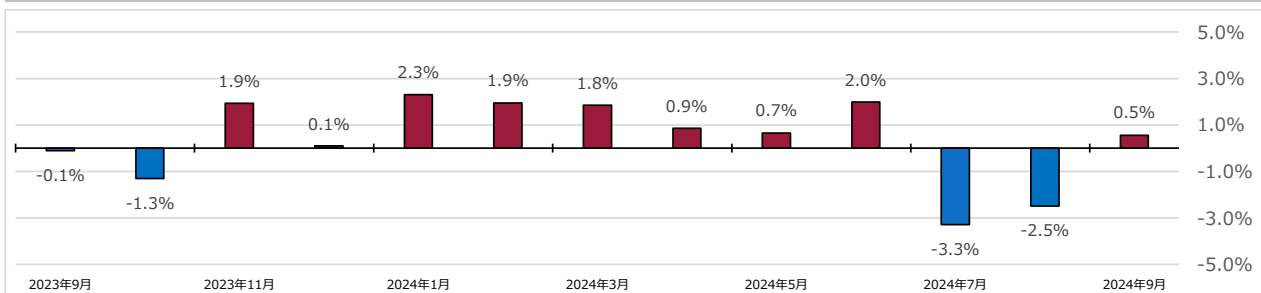
| 分配実績（1万口当たり、税引前） | | |
|------------------|-------------|-----|
| 第1期 | 2022年12月15日 | 0 円 |
| 第2期 | 2023年12月15日 | 0 円 |
| 合計 | | 0 円 |

※ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。



出所：投資信託協会

月間騰落率の推移



記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。記載内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。

取得申込に際しては必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容をご確認ください。

オーケストラ ファンド (安定コース)

追加型投信/内外/資産複合

Capital Asset Management

運用実績

| 資産配分 | |
|--------------|--------|
| | 純資産比 |
| 投資信託 | 94.0% |
| 上場投資信託 (ETF) | 5.0% |
| 現金・その他 | 1.0% |
| 合計 | 100.0% |

| 組入銘柄数 |
|-------|
| 12 |

<組入銘柄>

| 略称** | 構成比率 | 当月 リターン(*) | 6か月 リターン(*) | 1年 リターン(*) |
|------------------------------|-------|---------------|----------------|---------------|
| 1 コムジエスト世界株 | 5.4% | 3.2% | 2.9% | 29.3% |
| 2 MFSブルーデント | 20.4% | 1.6% | -0.2% | 11.2% |
| 3 ラザード・ラスモア | 10.2% | -0.5% | -1.6% | 2.7% |
| 4 ノムラ・ロンドンGDBF | 15.7% | 1.1% | 1.8% | 8.2% |
| 5 野村シスマク | 12.9% | 0.4% | -4.1% | 1.5% |
| 6 ABRブレンド | 4.3% | 0.3% | -0.2% | 16.5% |
| 7 マンAHLアルファコア | 5.8% | 2.6% | -8.2% | -7.9% |
| 8 アムンディ/サンドラー (US\$クラス) | 4.7% | -0.5% | -5.4% | 0.8% |
| 9 アムンディ/ティーダーマン (US\$クラス) | 4.7% | -1.8% | -5.1% | -0.2% |
| 10 米国物価連動国債 | 5.0% | -0.2% | -3.2% | 0.8% |
| 11 アムンディ/サンドラー (円クラス) | 5.2% | 0.7% | N/A (***) | N/A (***) |
| 12 アムンディ/ティーダーマン (円クラス) | 5.0% | -1.0% | N/A (***) | N/A (***) |

上述の3~12 (10除く) はオルタナティブの運用手法を取るファンドです。

(*) 運用各社のデータを基に、キャピタル アセットマネジメント株式会社が算出した円換算のリターン

(**) 銘柄名の略称

(***) 11番、12番のファンドについては4月から投資を開始し保有日数も僅かで、リターンの算出にはなじまないため「N/A」と表記いたしました。

| 銘柄名 | |
|-----|---|
| 1 | コムジエスト世界株式ファンド (適格機関投資家限定) |
| 2 | MFSメリディアン・ファンズ -ブルーデント・キャピタル・ファンド |
| 3 | ラザード・グローバル・インベストメント・ファンズ PLC -ラザード・ラスモア・オルタナティブ・ファンド |
| 4 | ノムラ・ファンズ・アイルランド -グローバル・ダイナミック・ボンド・ファンド |
| 5 | システマティック・グローバル・マクロ戦略ファンド F (適格機関投資家専用) |
| 6 | MontLake コリブ UCITS プラットフォームICAV- ABR ダイナミック・ブレンド エクイティ&ボラティリティ・ファンドIクラス |
| 7 | マン・アンブレラ・SICAV - マン・AHL・アルファコア・オルタナティブ |
| 8 | アムンディ・オルタナティブ・ファンズ・PLC アムンディ・サンドラー・USエクイティ・ファンド-クラスI USD |
| 9 | アムンディ・オルタナティブ・ファンズ・PLC アムンディ・ティーダーマン・アービトラージ戦略ファンド-クラスI USD |
| 10 | SPDR ポートフォリオ 米国物価連動国債 ETF |
| 11 | アムンディ・オルタナティブ・ファンズ・PLC -アムンディ・サンドラー・USエクイティ・ファンド - クラスI JPY |
| 12 | アムンディ・オルタナティブ・ファンズ・PLC -アムンディ・ティーダーマン・アービトラージ戦略ファンド - クラスI JPY |

記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。記載内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。

取得申込に際しては必ず「投資信託説明書 (交付目論見書)」の内容をご確認ください。

オーケストラ ファンド (安定コース)

追加型投信／内外／資産複合

Capital Asset
Management

マンスリーコメント

■ 投資環境

【株式市場】

9月の株式市場は世界的に上昇となりました。米国においては、月初こそ弱含んだものの、下旬にかけて上昇いたしました。8月のISM製造業景況指数が事前予想を下回ったことや、8月の雇用統計で非農業部門雇用者数が事前予想を下回ったことから、景気の減速懸念が強まり、株価は下落基調を強めました。その後、利下げ幅が拡大するという観測が広がったことや、半導体大手企業が人工知能（AI）関連の需要は強いという認識を示したことで、株価は上昇に転じました。インフレ指標の落ち着きとともに、8月の小売売上高が事前予想を上回ったことで極端な消費の減退は無いことが安心材料となりました。米連邦公開市場委員会（FOMC）で50bpの利下げが決定されたほか、経済見通し概要で労働市場の底堅さを保つために継続的に利下げを実施する見通しが示されたことが更なる株価上昇につながりました。中国当局が景気刺激策を相次いで打ち出したこと、8月の米国コアPCE（個人消費支出）デフレーター（価格指数）が事前予想通りであったことも株価の下支えとなりました。欧州圏においては、株価は小幅の下落で終わりました。月初、米国や中国の経済指標が予想未満であった結果を受けて、景気減速懸念が強まり、株価は下落しました。その後、米国株式が底打ちを見せたことに加え、欧州中央銀行（ECB）が25bpの利下げを決定したことで、株価は底堅く推移しました。英国では金融政策の据え置きが決定されましたが、米国の50bpの利下げが株式市場に好感されました。また、9月のユーロ圏購買担当者景気指数（PMI）速報値の悪化を受けて、ECBの追加利下げ観測が強まったことや、中国当局の積極的な景気刺激策も株価の下支えとなりました。9月の世界株式（モーニングスター・グローバル・マーケット指数）は前月比で2.15%（米ドル・ベース）の上昇となりました。

【為替市場】

○：9月末 142.73円（前月末比 1.43%ドル安円高）

9月のドル円相場は、円高となりました。FOMC前月末1ドル=144円台にあったドル円相場は、FOMCを前に神経質な動きに終始していましたが、大幅利下げ期待を背景に、月央には一時139円台まで円高となりました。注目のFOMCでは50bpの利下げが決定されたものの、今後の金融緩和ペースに関してパウエル議長がタカ派的な発言を行ったことや、日銀が政策決定会合後に追加利上げを急がないと示唆したことで144円台まで円安となりました。月末には自民党総裁選の決戦投票にて石破氏勝利となったことで急速に円高が進行し、142円台で終わりました。

【債券市場・金利】

過去数か月間、FOMCによる政策転換—次の一手に関して債券市場は神経質な動きに終始していました。今月の会合において、50bpという大幅な利下げが決定されたことで長期金利は一旦3.62%で底を打ち、月末には3.78%まで上昇いたしました。従来は3年から20年までの逆イールドが大きいカーブでしたが、短期金利が上昇したことで、イールドカーブ全体はフラットになりつつあります。当月は非農業部門の雇用者数が事前予想を若干下回り、インフレ指標も落ち着いていたこともFOMCの決定の後押しをしたものと思われる。

■ 運用状況

7月の月初に161円台の円安レベルからドル為替相場の急激な下落があり、9月16日には139円台まで円高が進行いたしました。この為替要因だけで外貨建て資産は円ベースでは2か月余りで約14%減価したことになります。株価がリバウンドしましたので、円高によるマイナスを打ち消す形にはなりません。一方でオルタナティブ・ファンドのパフォーマンスには注視すべき部分があります。株式ロング・ショートやイベント・ドリブンといった個別銘柄間のパフォーマンスの乖離から利益を得る戦略が不冴えでした。ボラティリティが高く下落相場の過程ではスプレッドをとるのは難しかったようです。逆に、過去数か月間不冴えであったトレンド・フォロー系戦略が久しぶりにプラスのリターンを得るようになりました。両戦略共に、今後の動きを注意深くモニターして参ります。

■ 今後の見通し・運用方針

年後半に向けては、米国の大統領選挙をめぐる運動や政治関連のイベントで内政・外交に関する政策について多くの情報が入り乱れることが予想されます。日本では9月に自民党総裁選挙が行われ、10月には衆議院解散・総選挙を行うことが既定の路線となりました。選挙の帰趨によっては財政政策、補正予算、予算配分に大きな影響が与えることもあり得ます。加えて、11月に米国の政権交代があれば、税制を含めて内政・外交ともに政策の変化は著しいことが予想されています。政治的な変化はメディアの喧騒を生み、实体经济にもインパクトがあり得ます。一方で、市場の歴史を振り返りますと、株式市場にとっては政治的な変化はファンダメンタルズに変化をもたらす原因となる一つの要素に過ぎないことが分かります。また、オーケストラ ファンドで組み入れているヘッジファンドはリスク管理に優れたマネージャー達によって運用されています。各々のファンド内部のリバランスは当然起きると思いますが、夫々の運用方針・哲学に沿った動きであることを想定します。

当面は現在組み入れているファンドを維持し、組み入れ比率も現状を維持し、従来通り、モデル型に合わせて追加解約の資金出入金状況を踏まえ購入、売却の行動をとって参ります。

オーケストラ ファンド (安定コース)

追加型投信 / 内外 / 資産複合

Capital Asset Management

ファンドの特色

世界中のファンドを厳選し、*「オーケストラ」を構築します。

- 国際分散投資を行い、分散投資効果を追求します。
- オルタナティブへの投資を通じ、下振れリスクの抑制を目指します。
- ファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。
- 運用に当たっては、「しさん設計株式会社」から投資助言を受けます。

※ なお、市況動向および資金動向により、上記のような運用が行えない場合があります。

* 「オーケストラ」とは、管弦楽を演奏する楽団を意味し、当ファンドの特色を表現しています。

ファンドに係わるリスクについて

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、世界各国の債券、株式、通貨、それらに関連するデリバティブ取引等の金融商品など値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被ることがあります。当ファンドに生じた利益および損失は、すべて投資家の皆様に帰属することになります。

また、投資信託は預貯金と異なります。

当ファンドの基準価額は、主に以下の要因により、変動することが想定されます。

| | |
|----------------------------|---|
| 株式の価格変動リスク | 当ファンドは実質的に株式に投資を行いますので、株式の価格変動の影響を受けます。株式の価格は政治経済情勢、発行企業の業績、市場の需給を反映して変動し、短期的または長期的に大きく下落することがあります。このような場合には、当ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。 |
| 為替変動リスク | 投資している通貨が円に対して強く（円安に）なればファンドの基準価額の上昇要因となり、弱く（円高に）なればファンドの基準価額の下落要因となります。したがって、投資している通貨が対円で下落した場合には、当ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。また、為替ヘッジを行う通貨の短期金利と円短期金利を比較して、円短期金利の方が低い場合には、当該通貨と円の金利差相当分のコストがかかりますが、さらに需給要因等によっては金利差相当分を上回るコストがかかる場合があることにご留意ください。 |
| 金利変動リスク | 債券、バンクローン等の価格は、一般的に金利低下（上昇）した場合は値上がり（値下がり）します。なお、債券、バンクローン等が変動金利である場合、こうした金利変動による価格の変動は固定金利の場合と比べて小さくなる傾向があります。また、発行者・債務者等の財務状況の変化等及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。加えて、物価連動債券の価格は、物価変動及び将来の物価変動に対する市場予想の変化によっても変動します。債券、バンクローン等の価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。 |
| リートの価格変動リスク | リートの価格は、不動産市況（不動産稼働率、賃貸料、不動産価格など）、金利変動、社会情勢の変化、関係法令・各種規制などの変更、災害などの要因により変動します。また、リートおよびリートの運用会社の業績、財務状況の変化などにより価格が変動し、基準価額の変動要因となります。 |
| 商品（コモディティ）の価格変動リスク | 商品の価格は、需給関係や為替、金利変動等の様々な要因により大きく変動します。需給関係は、天候、作況、生産国（産出国）の政治、経済、社会情勢の変化等に影響を大きく受けます。商品価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。 |
| ヘッジファンドの運用手法にかかるリスク | 投資対象ファンドにおいては、直接もしくは実質的に現物有価証券、デリバティブや為替予約取引等の買建てや売建てによりポートフォリオを組成することがあり、買い建てている対象が下落した場合もしくは売り建てている対象が上昇した場合に損失が発生し、ファンドの基準価額が影響を受け、投資元本を割り込むことがあります。また、投資対象ファンドの純資産総額を上回る買建て、売建てを行う場合があるため、投資対象ファンドの基準価額は現物有価証券に投資する場合と比べ大きく変動することがあり、投資元本を割り込むことがあります。ヘッジファンドのパフォーマンスは、通常、運用者の運用能力に大きく依存することになるため、市場の動向に関わらず、損失が発生する可能性があります。 |
| カントリーリスク | 海外に投資を行う場合には、投資する有価証券の発行者に起因するリスクのほか、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化や混乱などによって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。 |
| 信用リスク | 有価証券を発行する企業が、経営不安・倒産等に陥った場合、投資した資金が回収できなくなることがあります。また、こうした状況に陥ると予想された場合、当該企業の有価証券等の価値は下落し、当ファンドの基準価額が下がる要因となる可能性があります。 |
| 流動性リスク | 急激かつ多量の売買により市場が大きな影響を受けた場合、または市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、機動的に有価証券を売買できないことがあります。このような場合には、効率的な運用が妨げられ、当該有価証券の価格の下落により、当ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。 |
| 解約によるファンドの資金流出に伴う基準価額変動リスク | 解約によるファンドの資金流出に伴い、保有有価証券等を大量に売却しなければならぬことがあります。その際には、市況動向や市場の流動性等の状況によって、保有有価証券を市場実勢と乖離した価格で売却せざるをえないこともあり、基準価額が大きく下落することがあります。 |

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。記載内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。

取得申込に際しては必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容をご確認ください。

オーケストラ ファンド (安定コース)

追加型投信/内外/資産複合

Capital Asset Management

お客様にご負担いただく費用

①ご購入時に直接ご負担いただく費用

■ 購入時手数料：お買付申込日の翌営業日の基準価額に対して、3.3%(税抜3.0%)を上限として販売会社が個別に定める料率を乗じて得た金額

②ご解約時に直接ご負担いただく費用

■ 信託財産留保額：解約請求日の翌営業日の基準価額に対して0.1%

③投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

■ 信託報酬：信託財産の純資産総額に対して年率1.375%(税抜1.25%)
 投資対象とする投資信託証券 純資産総額に対して 年0.825%~1.025%程度 (税込)
 投資対象とする投資信託証券に係る信託財産の運用、基準価額の計算、運用財産の管理等の対価
 実質的な負担 純資産総額に対して年2.2~2.4%±0.2%程度 (税込)

※投資対象ファンドの実際の組入れ状況により変動します。なお、投資対象ファンドによっては、別途運用実績に基づき計算される成功報酬がかかる場合があります。

■ その他費用：有価証券等の取引に伴う手数料（売買委託手数料、保管手数料等）、監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理等に要する諸費用等が信託財産から支払われます。

※その他の費用・手数料は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※ファンドの費用の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

【お申込に際してのご注意】

1.当ファンドは、海外の株式等の値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、金融機関の預金とは異なり元本が保証されているものではありません。また、ファンドは預金または保険契約ではなく、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。第一種金融商品取引業者以外の金融機関は投資者保護基金に加入しておりません。

2.本資料はキャピタル アセットマネジメント株式会社が作成した情報提供資料であり、金融商品取引法により義務づけられた資料ではありません。お申込の際には、投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめあるいは同時にお渡ししますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

3.この資料におけるデータ・分析等は過去の実績に基づくものであり、将来の運用成果および市場環境の変動を保証もしくは予想するものではありません。

4.本資料はキャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

委託会社その他関係法人の概要

■ 委託会社： 信託財産の運用業務等を行います。

キャピタル アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者関東財務局長（金商）第383号

加入協会： 一般社団法人投資信託協会/ 一般社団法人日本投資顧問業協会

■ 受託会社： 信託財産の保管・管理業務等を行います。

三井住友信託銀行株式会社

記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。記載内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。

取得申込に際しては必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容をご確認ください。

オーケストラ ファンド (安定コース)

追加型投信/内外/資産複合

Capital Asset Management

■販売会社 (五十音順)

| 金融商品取引業者名 | 登録番号 | 日本証券業協会 | 日本投資顧問業協会 | 一般社団法人 金融先物取引業協会 | 一般社団法人 第二種金融商品取引業協会 |
|--|-------------------------------|---------|-----------|---------------------|------------------------|
| あかつき証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第67号 | ○ | ○ | ○ | |
| 株式会社イオン銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社) | 登録金融機関 関東財務局長 (登金) 第633号 | ○ | | | |
| 今村証券株式会社 | 金融商品取引業者 北陸財務局長 (金商) 第3号 | ○ | ○ | | |
| auカブコム証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第61号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 株式会社SBI証券 | 金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第44号 | ○ | | ○ | ○ |
| 株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券) | 登録金融機関 関東財務局長 (登金) 第10号 | ○ | | ○ | |
| 株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社) | 登録金融機関 関東財務局長 (登金) 第10号 | ○ | | ○ | |
| キャピタル・パートナーズ証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第62号 | ○ | | | ○ |
| 新大垣証券株式会社 | 金融商品取引業者 東海財務局長 (金商) 第11号 | ○ | | | |
| ちばぎん証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第114号 | ○ | | | |
| 松井証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第164号 | ○ | | ○ | |
| マネックス証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第165号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 楽天証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第195号 | ○ | ○ | ○ | ○ |

記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。記載内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。

取得申込に際しては必ず「投資信託説明書 (交付目論見書)」の内容をご確認ください。